

## 県内の遺跡・遺物11

みやぐちこふんぐん  
宮口古墳群

国指定 昭和51年5月6日

所在地 東頸城郡牧村大字宮口字清水田・仏光田・八幡堂

高田平野の東南部には複合扇状地が形成されており、その中で最も大きいのが飯田川扇状地です。宮口古墳群はこの飯田川扇状地の右岸扇頂部と、それに接する丘陵尾根上にあります。飯田川流域には宮口古墳群の北西に水科古墳群、左岸に南方古墳群・北方古墳群の2古墳群があり、高田平野南東の古墳集中域になっています。

宮口古墳群は3支群、31基の円墳で構成されています。上越考古学会や中川成夫氏らによる調査を経て、昭和50・51年に牧村教育委員会が15基について発掘調査を実施した結果、石室構造は28号墳が片袖型の横穴式石室と推定されたほかは、全て無袖型の横穴式石室であることが確認されました。副葬品は須恵器・土師器・装身具・武具・馬具があります。装身具にはガラス小玉・ガラス丸玉・切小玉・勾玉・棗玉・金環・アスファルト塗土玉、武具には直刀・刀子・足金具・鞆尻・鉄鏃・完形の金銅製円頭大刀、馬具には引手金具・辻金具などがあります。

現在宮口古墳群は、石室や墳丘が復元・補強され、史跡公園として整備されています。



## あしがき

早いもので、今年度の発掘現場の作業も終わりを迎える季節となり、各現場とも様々な成果を挙げて引き上げてきました。これから夏場の調査のまとめをおこないます。現場では見えてこなかったことが遺物や図面の整理を通して見えてくることでしょう。(D)

## 埋文にいがた No.13

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒951 新潟市一番堀通町5923番地46  
TEL (025) 223-5642  
FAX (025) 228-1762  
印刷 有限会社 双葉印刷